

かけはし

美保関灯台・出雲日御碕灯台

国の重要文化財指定

島根半島の東西両端に位置する美保関灯台（松江市美保関町美保関）と出雲日御碕灯台（出雲市大社町日御碕）が2月9日に国の重要文化財（建造物）に指定されました。島根県内では、平成23年に八幡宮（津和野町）が指定されて以来、約10年ぶりの指定で、県内の重要文化財（建造物）は今回の指定により26件となりました。そこで、重要文化財指定を記念し、両灯台を紹介したいと思います。



美保関灯台（提供：松江市／撮影：境海上保安部）

美保関灯台は、明治31年に建設された山陰地方最古の石造灯台です。灯台のほか、看守の休憩施設であった旧吏員退息所、旧第一物置（ともに重要文化財指定）、便所、石堀（ともに附指定）など、当初の構えがよく残っているのも貴重です。旧吏員退息所は灯台ビュッフェとして現在利用されており、そこにはかつて使われていた旧レンズや旧回転装置（ともに附指定）も展示されています。

出雲日御碕灯台は、明治36年に建設された国内で最も高い石造灯台で、高さ44メートルを誇ります。灯台建設の第一人者であった石橋絢彦が設計しており、日本人技師が手掛けた石造灯台の到達点といわれています。夕景のシルエットは日本遺産「日が沈む聖地出雲」の象徴のひとつで、「のぼれる灯台」として踊場から日本海の絶景を望むことができます。



出雲日御碕灯台（提供：出雲市）

美保関灯台・出雲日御碕灯台ともに日本海航路の安全・発展に寄与しており、現役の灯台として重要な役割を果たしていますが、両灯台のある美保関と日御碕は、『出雲国風土記』の「国引き神話」に登場する場所でもあり、古くから日本海交流の「かけはし」であったところでは、今回の両灯台の重要文化財指定が島根と皆さん、さらには多くの方々との「かけはし」になることを願ってやみません。

【お問い合わせ先】

島根県教育庁文化財課

TEL..0852-2226611

島根ふるさと紹介「海士町」

「離島ワーホリ」

「離島ワーホリ」は一般社団法人海士町観光協会の提供する中長期滞在型観光体験コンテンツです。参加の条件は「海士町で2週間以上の滞在をすること」のみとなっており、年齢や性別、国籍や来島の目的に関係なく、上記の条件さえ満たせばどなたでもご参加のお申し込みをいただくことが可能です。(※ご参加に際しましては、事前の面談がございます。)

これまでも沖縄を除く46都道府県、またイタリヤやドイツ、台湾など世界中の方にご参加をいただいております。参加者の年齢層も学生さんを中心に10代から60代と幅広く、離島ワーホリは参加者の皆様にとつて多様なあるつながりが生まれる機会のひとつとなっております。



離島ワーホリ参加者(シェアハウスでの交流)



島民との交流(キンニャモニャ民謡)

滞在期間中、基本的には町内の事業所から個人の希望やスキルに一致した現場をマッチングした上でお仕事をしていただいております。それと同時に、せっかく離島に中長期滞在をしていただくので、ただ働くだけでなく島民との関係を構築していただきたいと思います。私たちは雄大な自然景観だけではない海士町の暮らしの魅力が島民とのつながりから感じることで、参加者の皆様の滞在がさらに色濃いものになっていくと考えているからです。

「離島の仕事に携わることを地域への入り口と捉える」と言うが大袈裟ですが、例えば春に参加していただいたらちょうど旬を迎えるいわがき「春香」の水揚げや出荷を手伝い、夏の観光シー

ズンであれば繁忙期を迎えるホテルや民宿を、イカの獲れる秋には水産加工の現場を、といった具合に離島の暮らしは四季と共に移り変わる自然と密接に関係しており、シーズン毎のお仕事に携わることで島ならではの暮らしの魅力が自然に体験していただけると確信しております。

中長期滞在のなかで、観光客から島民へと視点が変わり、島の日常を実感することができるようになる、実際に島に住所を移さなくても、島ならではの暮らしの魅力に触れることができる。観光よりも濃密で、移住よりもお手軽な暮らしの体験サービス、それが「離島ワーホリ」の魅力です。



離島ワーホリ参加者お見送り(菱浦港)

お問い合わせ先

一般社団法人 海士町観光協会

TEL 08514-2-0101

こんにちは

関西江津会です。

近畿地方で活動される市町村人会のご紹介です。
第28回は、**関西江津会**のご紹介です。



会長の西江津会 坂 壽之

関西江津会の歴史は、平成4年結成された「近畿江津会(会長 柿田仁司)」と昭和12年結成された「島根県川越会」が、昭和34

年4月皇太子殿下(現上皇)美智子妃ご成婚の記念行事が奉祝されたのを期として「桜江町友人会(会長 岩城 静)」に改名、平成16年の「平成の大合併」で、江津市と桜江町が合併されたのを機に「近畿江津会」と「桜江町友人会」が合併、平成16年に第二回「近畿江津会」と「桜江町友人会」の結成式を兼ねた合同「総会・懇親会(会長 柿田仁司)」で「関西江津会」が発足しました。

関西在住の諸先輩及び、石見地区の浜田会・川本会・島根美郷会・邑南会と京都島根県人会などの故郷会の相互協力をしながら関係を深め、親しく交流しながら温かく育てて頂いています。

関西江津会結成以来、今日まで15回の「総会・懇親会」を毎年7月の最終日曜日に大阪市都島区の太閤園で開催して来ました。(令和2年と3年は新型コロナウイルス感染症予防および拡散防止のため中止しています。)



関西江津会総会・懇親会(神楽)

総会・懇親会は、出身地区別、江津市誘致企業招待、江津市の高校、中学校のミニ同窓会の席を設けております。会員の希望調査により、懇親会でのアトラクションは石見神楽を14回、江津市の石見神楽団からローテーションで招致し上演して頂いております。



神楽(写真提供「江津市」)

石見神楽のハイライトは、何と言っても最後に登場する「大蛇」の舞です。この舞は、石見神楽の数ある演目の中でも、最も人気があり、特に火焰をふく大蛇でみせる演技はまったく神技と言われ、幾度か会員を驚かせ、その手に汗を握らせる場面があり、実に見ごたえのある舞で豪華版と言えましょう。蛇胴の長さは実に16m、それが舞台上に8匹登場舞い手の演技ぶりは堂にいったものであります。

本会での自慢は総会時に発行する『総会誌』です。これは約40頁及び総会内容、江津の出来事、又、江津の昔話等を載せ来場者が楽しみにしているもので他のふるさと会ではあまりありません。これはきちんと製本されているので、長いこと保存しやすくなっております。

新型コロナウイルス感染症予防および拡散防止のため、総会中止の2年間においても年会費を納入し



関西江津会「会誌」

て頂いている会員様に対して、お礼を兼ねて令和2年は、前年の総会・懇親会を収録したDVD、浜田市観光協会作成の「令和3年度石見神楽カレンダー」を送付、令和3年は令和4年江津市観光協会作成の「石見神楽カレンダー」に、島根県大阪事務所及び江津市よりPRパンフレットを送付致しました。

また、地元江津市と会員交流の一環としては令和3年と4年には江津市物産協会からの「江津市物産応援」チラシを会員様に会より発送致しました。最近江津市からの紹介により、地元江津市の新鮮な鮮魚・野菜の販売イベントをホームページ「関西江津会」に掲載し、故郷との交流に努めています。

江津市は、令和3年5月6日に新庁舎をオープンし、第6次江津市総合振興計画スローガン「小さくともキラリと光るまち「ごうつ」の基本理念を関西江津会としても目的に今後とも会員の相互親睦を深めると共に江津市の発展に寄与できること、新型コロナウイルスの早期終息を念願しております。



江津市新庁舎(写真提供「江津市」)

【お問い合わせ先】

関西江津会事務局

事務局長 渡邊 憲治

〒618-0091

京都府乙訓郡大山崎町円明寺松田58-22

TEL : 090-8529-5916

島根県大阪事務所 からのお知らせ

移住相談イベント

■しまねU・イターン土曜相談会(要予約)

平日は仕事や学校などでお忙しい方に向けて、毎月1回土曜日に「しまねU・イターン土曜相談会」を大阪・梅田にて開催しています。

1組50分程度の個別相談形式で、島根県へのUターン・イターン、移住や就職などの島根に関する情報提供やご相談をお伺いしています。

開催日は、島根県大阪事務所ホームページ「Uターン情報」に掲載しています。お申し込みは4日前までに、電話かメールで移住支援コーディネーター・行平(ゆきひろ)までご連絡ください。

※学生の方の相談もご遠慮なくお申し込みください！



土曜相談会会場「まちらボ Dルーム」

【時間】 10:30～16:45

【会場】 大阪市北区松原町2番4号
大阪富国生命ビル4階

テラプロジェクト

「まちらボ」Dルーム



島根県大阪事務所
「Uターン情報」
QRコード

TEL: 06-6366-1136/37

メール: koyojoho-tanto@pref.shimane.lg.jp

※新型コロナウイルス感染症予防および拡散防止のため、皆様に左記のご協力をお願いしております。

1. 発熱が認められる方は、ご遠慮いただきませうようお願いいたします。
2. お越しの際は、マスクの着用をお願いいたします。
3. アルコール消毒液にて手指の消毒をお願いいたします。
4. 相談時を含め職員がマスクを着用して対応させていただきますので、ご理解のほどお願いいたします。
5. 今後の状況によっては中止になる場合があることをご了承ください。

「お知らせメール」登録者募集中!!

「島根県大阪事務所からのお知らせ」(メール配信)は、関西・東海地方における島根県関係のイベント情報等をお届けするものです。随時ご登録いただいたメールアドレスにお届けします。
近畿島根県人会会員様の中で、未登録の方は、ぜひ「お知らせ」メールにご登録ください。



お知らせメール
QRコード

近畿島根県人会事務局 からのお知らせ

近畿島根県人会 会員募集

お知り合いの方で当県人会にご興味がある方

がおられましたら、事務局までご連絡ください。活動内容や入会方法等をご説明いたします。

***市町村人の方で、県人会未加入の方へぜひお声がけ願います。**



「故郷応援団～みんなで楽しむ近畿島根県人会～(懇親会)」の様子(2019年11月)

近畿島根県人会 ホームページのご案内

近畿島根県人会ホームページでは、近畿島根県人会の紹介、活動報告、機関紙、市町村人協会、お知らせ、イベント情報、縁結び美味しまね認証店等を掲載しております。ぜひ、ご覧ください。



近畿島根県人会
ホームページ
QRコード

異動の連絡

住所・連絡先・勤務先等に変更がございましたら、近畿島根県人会「会報」巻末の「異動通知連絡票」をご提出ください。また、記載事項に誤り等がございましたら事務局までご連絡ください。ご理解とご協力をお願いいたします。

かけはし

この度、島根の歴史について執筆されておられる、島根県大阪事務所田中博一氏に、島根と近畿の歴史に関連するコラムを連載いただきます。

近畿・島根歴史探訪コラム

尼子勝久と東福寺と上月城

戦国時代、山陰の英雄と言えば『山陰の麒麟児』との異名で呼ばれる山中鹿介（幸盛）です。滅びた主家、尼子家を再興するために仇敵毛利家を相手に東奔西走し戦い続けました。その忠義心と「我に七難八苦を与えたまえ」の台詞は有名で様々な物語として伝わっています。

その山中鹿介が尼子家再興の主君として支持したのが尼子勝久です。

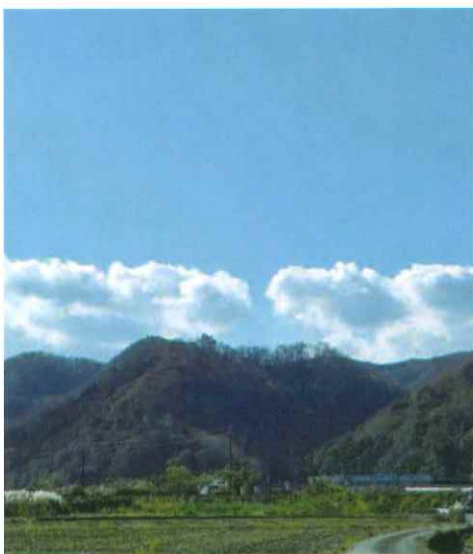
さて、この尼子勝久ですが、近畿地方に縁があります。

そもそも尼子家が毛利家に滅ぼされた時（一五六六年）、尼子家の居城である月山富田城（島根県安来市）に尼子勝久は居ませんでした。

勝久が生まれた翌年、父、尼子

誠久は新宮党の乱によって主君尼子晴久に肅清されてしまいました（この乱は毛利元就の謀略と言われています）。この時、勝久は家臣に助けられて逃げとおし、京都の東福寺（京都市東山区本町）の僧として育てられることになりました。東福寺は臨済宗五山の一つで、言わずと知れた紅葉の名所です。

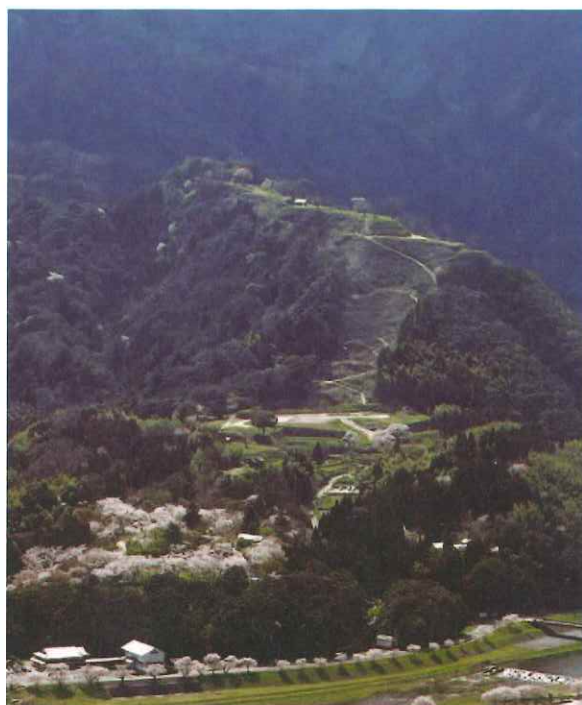
毛利家によって尼子家が滅ぼされた時、このことが



上月城(山城)跡
(兵庫県佐用郡佐用町)



東福寺(京都市東山区)



月山富田城遠景



月山富田城 山中(さんちゅう)御殿

〔月山富田城〕

尼子家の居城であった月山富田城は、日本五大山城に数えられることもある宏大な山城です。山中(さんちゅう)御殿と呼ばれる城主の居館跡や、七曲がりと呼ばれる主郭への登坂道など、多くの見どころがあります。

幸いし尼子の血筋が残ることになりました。

主家再興を目指す山中鹿介らは尼子勝久を見つけ出して還俗させ、尼子家再興のために山陰地方で戦い続けます。

尼子家再興軍は隠岐で体

勢を整え、出雲へと侵攻します。月山富田城の奪還を目指し、その一步手前まで迫ったものの、北九州から

軍を返した毛利輝元、吉川元春により布部の戦いで敗れ撤退します。その後も伯耆、因幡と多勢の毛利軍との戦い続けるも旧主の地を

取り戻すことができず、最終的には織田信長を頼ります。中国方面軍を差配して

いる羽柴秀吉の指揮下に入り、播磨国上月城(兵庫県佐用郡佐用町)の守備を任されることになりました。

そこは織田家と毛利家の領土争いの最前線です。破竹の勢いで西進する織田家の支援を受け、尼子家再興に

光明が見えてきたその時、状況は一変します。織田家に臣従していた別所長治が反乱を起すと、織田信長は三木城攻略に集中するため、羽柴秀吉に上月城支援の中止を命令します。

これによって孤立無援となった上月城の尼子勢は毛利軍に包囲され、籠城戦の末、降伏することとなりました。

降伏の条件として尼子勝久は自害します。享年二六の若さでした。同時に山中鹿介も捕らえられ、移送中に高梁川(岡山県)で殺害されてしまいました。

尼子勝久らは尼子家復興戦として約十年間、戦い続けましたが、かつての居城、月山富田城に踏み入ることはできませんでしたが、その足跡は近畿地方を中心に残されたのでした。

上月城の麓には、尼子勝久、山中鹿介らの追悼碑が建立されています。

〔コラム筆者：田中博一氏のご紹介〕

島根県邑南町出身。農業普及員(花き専門)、島根県農業技術センター等を経て、令和三年四月から大阪事務所勤務。著書に『石見戦国史伝』『浜田城史伝』(ハーベスト出版)があり、島根の歴史をわかりやすく紹介している。